



日本大学 理工学部 海洋建築工学科

稲垣 直秀

T I D E : 海の動きによって変動する場所

潮の満ち引き、海の匂い、波の音、そして光。東京での生活は、海を身近に感じることができない。近年の都心回帰により海際に建設される超高層建築。海と平行してつくられた交通インフラ。そして、カミソリ堤防と呼ばれる海際にそびえ立つ堤防。これらが、都市と海を切り離し各々が独立して存在している。敷地は東京都港区にある、竹芝埠頭。東京湾内に数ある埠頭の中でも最も都心に近い埠頭である。

本計画は、都市と海との境界をデザインし繋ぐことにより、新しい海との関係がうまれる空間・場所を提案する。



講 評

竹芝埠頭周辺の大規模な開発が進んでいる。高層ビル郡の足元にある海辺をデザインし繋ぐことによって、都心に地番近い埠頭を、水上ネットワーク構想も視野に都心への玄関口になるように計画している。

高さ5メートルの現況の壁を壊すことから、デザインを始めている。潮の満ち欠けを計り、干潮時の3m引き込むことでの変化を楽しむ事ができる。高さの違う点を取り、幾何学模様の中にも様々な施設を設ける。またそれによって出来る斜面を引き込んだ海水が織りなす面白さが目を引く。

様々な三角の頂点と内包する施設の組み合わせ、模型でみる混然としたデザイン表情の楽しさが伝わってくる。

[審査員 泉川 安雄]